様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	西南学院大学
設置者名	学校法人西南学院

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
神学部	神学科	夜・通信	6	0	8	14	13	
文学部＊	英文学科	夜・通信	8	6	0	14	13	
	外国語学科	夜・通信	8	6	0	14	13	
外国語学部	外国語学科	夜・通信	6	0	8	14	13	
商学部	商学科	夜・通信	6	8	0	14	13	
	経営学科	夜・通信	6	8	0	14	13	
経済学部	経済学科	夜・通信	6	8	0	14	13	
	国際経済学科	夜・通信	6	8	0	14	13	
法学部	法律学科	夜・通信	6	8	0	14	13	
	国際関係法学科	夜・通信	6	8	0	14	13	
人間科学部	児童教育学科	夜・通信	6	0	8	14	13	
	社会福祉学科	夜・通信	6	0	8	14	13	
	心理学科	夜・通信	6	0	8	14	13	
国際文化学部	国際文化学科	夜・通信	6	8	0	14	13	

（備考）
＊文学部(英文学科、外国語学科(英語専攻、フランス語専攻))は 2020 年度より学生等の募集を停止しているため、従前の教育課程による。

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

西南学院大学シラバス・講義計画
https://isaints.seinan-gu.ac.jp/syllabus/

※「実務経験のある教員等による授業科目」の□欄をチェックして検索

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	西南学院大学
設置者名	学校法人西南学院

１．理事（役員）名簿の公表方法

役員・評議員名簿(https://www.seinan-gakuin.jp/info/yakuin.html)

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	バプテスト教会牧師	2025.5.29 ～2029.6	キリスト教主義に基づいた法人運営が行われているかを、牧師の立場から判断・助言する。
非常勤	株式会社取締役	2025.5.29 ～2029.6	学校教育・学校法人の運営に関する見識を有する立場から判断・助言する。
（備考） 2026年4月23日現在の理事一覧表の内、学外者である理事7名の内2名を掲載			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	西南学院大学
設置者名	学校法人西南学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） Ⅰ．シラバスの作成 毎年、すべての授業科目について、下記の内容を記載した授業計画書（シラバス）を作成している。 １．授業の到達目標 ２．ＤＰ観点（ディプロマ・ポリシー） ３．授業の概要 ４．事前・事後学習、時間等 ５．授業計画（各回の授業内容） ６．活用される学習方法 ７．教科書・テキスト ８．参考書等 ９．課題の種類・内容 １０．課題に対するフィードバックの方法 １１．成績評価の方法 １２．成績評価の規準 １３．評価尺度（水準） １４．成績評価に関するその他の確認事項 １５．使用言語（日本語以外） １６．履修上の注意 Ⅱ．シラバスの作成時期：毎年１２月～翌年１月頃 Ⅲ．シラバスの公表時期：毎年３月上旬 Ⅳ．参考 各学部・学科のカリキュラム一覧 https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/curriculum.html

授業計画書の公表方法	https://isaints.seinan-gu.ac.jp/syllabus 2026 年度　2,645 件

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

Ⅰ．成績評価の方法（履修規程 第5章 第32、34条）
成績は、試験（学期末試験、臨時の試験）、研究報告、論文などにより定める。なお、試験及び評価の方法、基準等は、各授業科目の講義要綱（シラバス）に定める。

Ⅱ．成績評価の基準（履修規程 第5章別表2（第35条及び第35条の2関係）成績評価基準）成績評語は、次の基準による。

評語	GP	評語の意味		判定	素点（百点満点での目安）
S	4	卓越水準		合格	100点より90点まで
A	3	目標	到達水準	合格	89点より80点まで
B	2		途上水準	合格	79点より70点まで
C	1		下限水準	合格	69点より60点まで
D	0	単位不認定水準		不合格	59点以下
X	0	失格		不合格	
T		単位認定		合格	
P		合格		合格	
F		不合格		不合格	

備考
1　2段階評定科目では、P(合格)、F(不合格)を使用する。
2　本表は、2023年度第1年次入学生から適用する。

Ⅲ．厳正かつ適切な単位授与、履修認定
シラバスに定める授業の到達目標及びテーマを踏まえ、同じく明示する成績評価の方法・基準（方法毎の割合）に沿って、客観的に判定している。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

Ⅰ．客観的指標

以下のとおり、ＧＰＡ制度及びＤＰ観点別評価を採用している。

【ＧＰＡ制度】

履修した科目の評価を評点（Ｓ：４、Ａ：３、Ｂ：２、Ｃ：１、不合格：０）に換算し、その単位数で加重平均とすることによって算出している。

$$\frac{４\times S \quad + \quad ３\times A \quad + \quad ２\times B \quad + \quad １\times C}{\text{総履修登録単位数（D・Xの単位数を含む。）}}$$

※1「Ｔ（単位認定）」の科目、2段階評定科目の「Ｐ（合格）」及び「Ｆ（不合格）」、教職課程科目等の卒業所要単位に算入しない科目は、ＧＰＡ算出の対象としない。

※2　学生及び保証人への成績通知にＧＰＡを記載される。

※3　成績証明書には、ＧＰＡの値は記載されない。

【ＤＰ観点別評価】

ＤＰ観点別評価の標語、評点及び水準は、以下のＤＰ観点別評価基準に定めるとおりとする。

ＤＰ観点別評価基準の評点（以下「評点」という。）を用いて、不合格の授業科目を含めて、取得したＤＰ得点の合計を算出する。

ＤＰ得点の合計は、履修した授業科目の単位数に、成績に応じた評点及び設定されたＤＰ寄与率を乗じ、その総和で算出する。

［計算式］

単位数×評点×寄与率＝得点

ＤＰ観点別評価基準

ＤＰ観点別評価				備考（成績評価との関係）
評語	評点	水準		
s	9.0	卓越水準		
a	8.0	目標	到達水準	
b	7.0		途上水準	
c	6.0		下限水準	
h	5.0	近接水準		
d	0.0	評価不能		
x	0.0	評価不能		失格Ｘの場合
a	8.0	目標到達水準		単位認定Ｔの場合
a	8.0	目標到達水準		2 段階評定Ｐ（合格）の場合
f	0.0	評価不能		2 段階評定Ｆ（不合格）の場合

※1　本表は、2023 年度第 1 年次入学生から適用する。

※2　教職課程科目等の卒業所要単位に算入しない科目は、ＤＰ観点別評価の対象外授業科目とする。

客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.seinan-gu.ac.jp/campuslife/class/study.html

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） Ⅰ．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 西南学院大学は、その教育理念と目的のもと、各学士の教育課程において、所定の期間在学し、卒業に必要な単位の修得を通じて、次に掲げる資質・能力を身に付けた者に対し、学士の学位を授与する。 Ａ．知識・技能 幅広い教養と専門的知識・技能を身に付けている。 Ｂ．思考力・判断力・表現力等 学びと研究の質を高めることができる思考力・判断力・表現力等を幅広く身に付けている。 Ｃ．総合的な学修経験・創造性 地域社会及び国内外の諸課題の解決に主体的･創造的に参画･貢献することができる。 Ｄ．態度・志向性 自己の成長と社会の発展のために、自律的に学び続ける態度を身に付けている。 （※各学部のポリシーの詳細は、以下公表の内容のとおり） Ⅱ．卒業の認定に関する方針の適切な実施 学部・学科によって定められた「修得する能力」を身に付け、専攻科目、共通科目から所定の単位以上を修得し、学則に定める在学期間を満たす者へ学士の学位を授与している。2 年次および 3 年次終了時点にて一定の修得単位の状況に鑑みた判定を実施するとともに、4 年次 4 月の段階で卒業見込判定を、最終的には 4 年次 3 月上旬に卒業判定を実施している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	［理念と３つのポリシー］ https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html ［学生便覧］ 学部・学科のディプロマ・ポリシー（卒業要件、修得する能力） https://w3.seinan-gu.ac.jp/kyoumuka/binran.html

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	西南学院大学
設置者名	学校法人西南学院

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.seinan-gu.ac.jp/introduction/public_information/public_financial.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.seinan-gu.ac.jp/introduction/public_information/public_financial.html
財産目録	https://www.seinan-gu.ac.jp/introduction/public_information/public_financial.html
事業報告書	https://www.seinan-gu.ac.jp/introduction/public_information/public_financial.html
監事による監査報告（書）	https://www.seinan-gu.ac.jp/introduction/public_information/public_financial.html

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：2026 年度事業計画　　対象年度：2026 年度　）
公表方法： https://www.seinan-gu.ac.jp/introduction/public_information/fo0flp0000006z06-att/jk1tbg0000001iis.pdf
中長期計画（名称：中長期計画 2026-2037「中期計画 2026-2029」対象年度：2026～2029 年度）
公表方法： https://www.seinan-gakuin.jp/renew_assets/data/kikaku/#target/page_no=1

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法： https://www.seinan-gu.ac.jp/introduction/public_information/report.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法： https://www.seinan-gu.ac.jp/introduction/public_information/mutualrating.html

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　神学部神学科

教育研究上の目的（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#stheology）

（概要）
神学部は、聖書やキリスト教思想・哲学・芸術を中心とする学びを通して、キリスト教精神の本質を究明するとともに、この精神を担い、日本、そして世界の精神文化の形成、倫理・道徳の向上、平和と福祉の促進に貢献する人間を養成するために、キリスト教界の指導者、教会の伝道者・牧師などの専門職業人、並びにキリスト教精神を基盤として社会に貢献する人を育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針・教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#stheology）

（概要）

ｶﾃｺﾞﾘｰ	卒業の認定に関する方針	教育課程の編成に関する方針
A-2	聖書の学びに精通し、特にバプテストの信仰理解に精通し、信仰の歴史的・神学的問題を多面的に理解することができる。	キリスト教精神に基づく幅広い教養を身に付けるための専門基本科目及び神学を学ぶ上で不可欠なツールである古典語学や基礎的な現代語学に習熟するための古典語学･外書講読科目を配置する。
A-3	人文学、特にキリスト教思想・哲学・芸術を中心とする分野の知識と技能を適切に獲得・活用することができる。	聖書学・キリスト教歴史・キリスト教神学の部門を土台として、オリエント学・西洋古典学・キリスト教文学・音楽・美術等、更には総合的な人間学を学び、幅広くキリスト教を基礎とした人文学を学修するための科目を配置する。
B-2	神学的思考力を備えて批判的判断を重ね、キリスト教精神を究明し、それを発信することができる。	聖書の学びに精通するための聖書学科目及び歴史における信仰・神学の諸問題に精通し、今日の諸問題と切り結ぶための歴史神学科目を配置する。
B-3	神学分野に関連する人文学の領域の諸科学の思考・判断・表現等の方法を獲得・活用することができる。	諸学、特に人文学の諸領域の諸科学と対話しながら、人間と世界を正しく理解する力を身に付けるためのキリスト教人文学科目を配置する。
C-2	神が全世界を創造されたことに応答し、被造物と共に生きることを目指して、その祝福・平安・保全に対する責任を担うことができる。	主体的自覚的な課題抽出力を磨き、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を鍛えるための特殊科目を配置する。
C-3	精神文化の形成、倫理、道徳の向上に向け、広く歴史・世界に働かれる神のわざに仕える創造的な奉仕をすることができる。	キリスト教信仰の普遍性を踏まえ、国際感覚豊かな、社会奉仕の精神を持つ人となるための科目を配置する。
D-2	イエス・キリストの解放の福音から押し出されて、日本、そして世界における平和の創造、人権の擁護、福祉の促進を追求し続けることができる。	日本そして世界の精神文化の形成、倫理・道徳の向上、平和と福祉の促進に貢献する人となるためにキリスト教精神を身に付けるための組織神学科目を配置する。
D-3	キリスト教界の指導者、教会の伝道者・牧師などの専門職業人として社会に貢献する態度を身に付けている。	教会の基本的な働きである伝道・礼拝・宣教・牧会などを学び、平和・人権の課題に取り組み、社会に貢献できるキリスト教界の専門職業人となるための技術を身に付

		けるための実践神学科目を配置する。
D-4	キリスト教精神を基盤としたリーダーシップと真摯な探求心で社会に貢献する態度を身に付けている。	幅広い教養を培うため、また、実践的な課題を射程に置いた倫理学的な教育を行うための科目を配置する。

【各カテゴリーについて】
A：知識・技能
B：思考力・判断力・表現力等
C：総合的な学修経験・創造性
D：態度・志向性

教育課程の実施に関する方針
①神学分野の教育課程の編成をふまえ配置された各授業の内容に応じ、知識の理解を目的とする教育内容について、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採る。
②講義、演習ともに少人数による教育を行い、学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる、本人の実力を育てる教育を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#stheology）

（概要）
1．求める学生像
神学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。
〔知識・技能〕
高等学校で履修する主要教科・科目の内容を幅広く理解し、高等学校卒業相当の知識を有する者
〔思考力・判断力・表現力等の能力〕
知識・技能を活用し、課題を解決するために必要な思考、判断、表現等が出来る者
〔目的意識・意欲〕
①歴史的、人文･社会的、国際的な文化への関心のある者
②神学コースは、キリスト教界における指導的な役割（伝道者･牧師、宣教師、教会主事など）を明確な目標に置く者
③キリスト教人文学コースは、幅広い教養を身に付け、社会奉仕の精神を持つことを目指す者
2．選抜方法
神学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。
（1）一般選抜（一般入試、英語 4 技能利用型一般入試）
高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。
（2）総合型選抜（総合型入試）
総合型入試では、小論文と面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。
（3）学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）
学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。また、神学部独自の指定先として、キリスト教学校教育同盟加盟高校及び日本バプテスト連盟加盟教会から、神学部での学びに強い意欲と理解をもった者の推薦

を受け入れる。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。
（4）その他の選抜（外国人入試、国際入試（帰国生・IB 生））
多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人、帰国生及び国際バカロレア資格取得者のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の目的意識・意欲、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　文学部英文学科

教育研究上の目的（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#english_literature）

（概要）
英文学科は、英語、英米文学・文化の教育・研究を通して、実践的な英語運用能力、広く深い教養と専門知識、豊かな感性と想像力、等を陶冶することに努め、グローバル化した社会の要請に応じうる人材を育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#english_literature）

（概要）
1. 卒業要件
専攻科目から 70 単位以上、共通科目から 20 単位以上、専攻科目、関連科目及び共通科目から 38 単位以上、合計 128 単位以上を修得し、2 に挙げる能力を身に付け、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（英文学）の学位を授与する。
2. 修得する能力
（1）英語、英語圏の文学･文化の教育･研究を通して、論理的思考力を身に付けている。
（2）英語に関する語学的知識を修得し、実践的運用能力を身に付けている。
（3）英語圏の文学･文化･社会の在り方についての広く深い教養と専門知識を持っている。
（4）グローバルな視野に立って知識と情報を収集伝達する技術を修得している。
3. 卒業後の進路
運輸･旅行関連、マスコミ･情報関連、金融･保険関連の各業界、並びに公務員及び公立、私立の中学校･高等学校教員への就職や、大学院への進学が期待される。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#english_literature）

（概要）
1. 体系（構成）
（1）英文学科の授業科目は、専攻科目･関連科目･共通科目から構成されている。
①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。
②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。
③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。
（2）社会の要請や学生のニーズに応じて、英語圏の文学･文化関係をはじめ様々なジャンルの科目を提供している。
（3）1・2 年次は、リーディングスキル、スピーキングスキル、ライティングスキル、CALL 演習等のスキル系科目により、英語の実践的な能力の育成に力を注ぐ。
（4）1 年次は、基礎演習と英米文学･文化基礎講読により、英語で書かれたテキストを正確に読み、それについて自らの考えをまとめ、レポートやプレゼンテーションによって発表する訓練を行う。同時に、英米文学･文化概説により、専門分野の入門的知識を得る。

(5) 2・3 年次は、英米文学･文化講読、イギリス文学史、アメリカ文学史、イギリス文化論、アメリカ文化論、英米文学･文化 研究等により、専門分野に関する知識を深める。
(6) 「文学･翻訳系」、「キャリアイングリッシュ系」、「グローバル文化系」の 3 つの履修モデルに提示された科目を履修することによって、英語の総合的な力を高めながら、文学と文化と社会に関する問題意識を養う。
(7) 3 年次必修の演習Ⅰ、4 年次必修の演習Ⅱでは、主として英語圏の文学･文化に関する研究テーマを設定した少人数のセミナー形式の授業により、専門的な研究を行う。

2. 特色

(1) 基礎科目、演習科目においてレポート作成、プレゼンテーションの方法等の指導を行う。
(2) 少人数制の語学教育を行う。
(3) 豊かな感性と想像力を育てる英語圏の文学･文化科目を開講する。
(4) グローバルな知識と情報を身に付ける学際的関連科目を開講する。
(5) 多様な課題に対して、学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる教育を行う。

3. 具体的な教育内容

〔基礎科目〕

「聴く」「話す」「読む」「書く」の 4 つのスキルを習得し、英語の実践的な能力の向上をはかるとともに、レポート作成やプレゼンテーションの方法等のアカデミックスキルを学ぶ。英語圏の文学作品をはじめ様々なテキストを読み解くための基礎を身に付けることで、3 年次以降の専門領域での学習活動が行えるように準備する。

〔英米文学･文化科目〕

英語圏の文学･文化を学ぶことで、深く広い教養を身に付け、豊かな感性と想像力を養う。更に、多様化する世界状況に対応するために、グローバリズム、批評理論、翻訳、映画、フェミニズムについての専門的な知識を学ぶ。

〔キャリアイングリッシュ科目〕

留学や就職活動で求められる資格試験のための学習を行い、英語を生かした職業で求められる基本的な知識の習得及び英語力の向上をはかる。

〔英語学･英語教育科目〕

英語の語学的知識を学び、英語と文化や社会との関係を認識する能力を養う。更に、英語の特性を科学的に分析し、その研究成果を教育に活かす能力を育成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#english_literature）

（概要）

1. 求める学生像

英文学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。

(1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
(2) 英文学科のカリキュラムが提供する講義に積極的に参加できる者。
(3) 英語の習得に高い関心を持つ者。
(4) 英語圏の文学･文化、社会について知的好奇心を持つ者。

2. 選抜方法

英文学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

(1) 一般選抜（一般入試、英語 4 技能利用型一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期･後期）、一般･センター併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価する。また、一般入試では英語の配点比率を高くし、更に基準点を設けることにより、英文学科において専門知識を修得するための英語力を有しているかどうかも含めて判定する。

（2）特別選抜（総合型選抜入試、指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレア AO 入試）

総合型選抜入試では、小論文と面接を課し、面接においてはグループディスカッションも含むものとして、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。推薦入試では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求めるが、英文学科においては、更に英語の評定平均値や資格･検定試験のスコアなどを出願資格に加えることにより、特に英語に興味を持ち、その能力を維持発展させる意欲のある者を評価する。受験者には、小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア AO 入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

（3）その他の選抜（外国人入試、帰国生入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　文学部外国語学科英語専攻

教育研究上の目的（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#english）

（概要）

外国語学科英語専攻は、英語学・英語教育、コミュニケーション学、ビジネス英語、言語文化を教育・研究の柱とし、実践的な英語運用能力の育成を図るとともに、英語と文化や社会との関係を認識する能力を養い、英語の特性を科学的に分析する能力を涵養し、その研究成果を教育に活かす能力を育成し、社会の発展に寄与する自発的で創造性豊かな人材を育てることを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#english）

（概要）

1. 卒業要件

専攻科目から 70 単位以上、共通科目から 20 単位以上、専攻科目、関連科目及び共通科目から 38 単位以上、合計 128 単位以上を修得し、2 に挙げる能力を身に付け、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（英語学）の学位を授与する。

2. 修得する能力

（1）英語の語学的知識を修得している。
（2）実践的な英語運用能力を身に付けている。
（3）グローバルな視野に立ち、言語と文化に関する豊かな知識を修得している。
（4）豊かな人間関係を育むための知識、創造力、行動力を身に付けている。

3. 卒業後の進路

メーカー、商社、金融、小売、旅行･交通･観光関連、教育関連の各業界、並びに公務員及び公立、私立の中学校･高等学校教員への就職、更に大学院進学が期待される。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#english）

（概要）
1．体系（構成）
(1)外国語学科英語専攻の授業科目は、専攻科目･関連科目･共通科目から構成されている。
①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。
②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。
③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。
(2) 1・2年次では、英語の基礎学力を向上させるために、「英語総合演習」「英語演習」「スピーキングスキル」「英文法」等の英語スキル養成科目を中心に学ぶ。また、1年次の必修科目である「ことば学入門」と「コミュニケーション学入門」は、英語専攻での学修の基礎となる科目である。
(3) 2年次には、「英語学概論」「コミュニケーション学基礎演習」「ビジネスコミュニケーション」等の入門科目を学ぶ。
(4) 3年次以降は、4つの部門から専門科目を学ぶ。
①英語学部門では、英語を人間の思想を反映する言葉としてとらえ、英語の語彙･構造･歴史等を理論的に研究する。
②コミュニケーション学部門では、英語を異文化コミュニケーションの手段の1つとしてとらえ、スピーチやコミュニケーションの理論を学び、豊かな人間関係を築くための訓練を行う。
③ビジネス英語部門では、英語の実務的運用能力の向上に重点を置き、国際ビジネスの仕組み及びビジネスコミュニケーションの諸問題を研究する。
④言語文化部門では、文学作品等を通して英語という言語の背後にある文化的･社会的要素を深く分析しながら、英語を使った日本文化の世界への発信方法を研究する。
2．特色
(1) 少人数による英語スキルのクラスで、きめの細かい指導を行う。
(2) 英語を読む、書く、聴く、話す力の指導を行う。
(3) 個人の学力に合った指導を行う。
(4) 想像力、創造力、好奇心、探究心を養う教育を行う。
(5) 幅広い関連分野の学修機会を提供し、学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる教育を行う。
3．具体的な教育内容
〔英語スキル養成関連科目〕
「読む」「書く」「聴く」「話す」の4つのスキルを中心に学び、専門領域で英語を生かした学修活動ができる英語力を身に付けると同時に、英語の修得を通じて、豊かな教養、批判的思考力、及び国際的に通用するコミュニケーション力を獲得する。
〔英語学関連科目〕
グローバル社会における英語の広がりを背景に、言語普遍性を念頭に置いた英語の理論的･認知科学的知見に目を開くと共に、歴史と社会の変容に伴う英語の多様性に目を向け、英語をより深く広い文化と社会の文脈の中で理解し、論理的思考力及び批判的思考力を備えた、教育研究分野をはじめとする社会で実践的に活躍できる力を身に付ける。
〔コミュニケーション学関連科目〕
英語の語学的知識を習得した上で、グローバル社会で実践的に有効なコミュニケーション能力を養成する。そのためにコミュニケーション学の基本的知識を習得し、それに基盤を置く能力を向上し、異文化はもちろん様々な対人関係を創造的に育む総合的コミュニケーション能力とともに、社会のあり方に関心を抱き、問題を発見、解決する能力を修得する。
〔ビジネス英語関連科目〕
国際ビジネスや貿易（輸出入取引）に関連する、メーカー、運輸･流通、金融、保険等多岐にわたる業界についての知識、また国際情勢や世界経済の情報を理解するデータや書類の読解やそれらを発信するための英語力を養う。更に、異文化経営や国際ビジネスにおける交渉力、意思決定能力、リーダーシップ等の英語によるビジネスコミュニケーションの

知識とスキルを学ぶ。
〔言語文化関連科目〕
西洋の文化や言語に影響を与えた神話や宗教的逸話、或は日本文化の主なスタイルとその歴史的背景について学び、異なる文化や社会のみならず、自国の文化や社会に対して知的な見方ができるような思考力を鍛える。アカデミックライティング、及び英語による議論とプレゼンテーションのスキルを磨く。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#english）

（概要）
1. 求める学生像
外国語学科英語専攻は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。
（1）大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
（2）英語の基礎力を修得し、英語学習に積極的に取り組める者。
（3）異文化の他者と積極的にコミュニケーションする意欲を持つ者。
（4）自らの人間関係に関する好奇心と向上心を持つ者。
2. 選抜方法
外国語学科英語専攻では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。
（1）一般選抜（一般入試、英語 4 技能利用型一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期･後期）、一般･センター併用型入試）
高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価する。また、一般選抜のすべての入試において英語の配点比率を高くし、更に一般入試では英語に基準点を設けることにより、英語専攻において専門知識を修得するための英語力を有しているかどうかも含めて判定する。
（2）特別選抜（総合型選抜入試、指定校推薦入試､指定校選抜入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレア AO 入試）
総合型選抜入試では、高水準の英語能力を有することを出願条件とし、入学後にその能力を積極的に活用し、他の学生に刺激を与えることを期待している。受験者に小論文と面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。推薦入試では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求めるが、英語専攻においては、更に英語の評定平均値や資格･検定試験のスコアなどを出願資格に加えることにより、英語に興味を持ち、その能力を維持発展させる意欲のある者を評価する。受験者には、小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア AO 入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。
（3）その他の選抜（外国人入試）
多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人のための入試を実施する。一定の語学力を有することを出願要件としたうえで、日本語による作文と面接を課すことにより、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　外国語学部外国語学科

教育研究上の目的（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#sforeign_language_studies）

（概要）
外国語学部は、外国語に関する学問的知識と実践的な運用能力の習得を基盤とし課題解決を目指す総合的なコミュニケーション能力を身に付け、深い教養と広い知識を有する高いレベルの専門家として、言語・文学・文化の多様性を理解し、それらの価値観を尊重し、異なる背景を持つ人々と協調しながら、社会の諸課題の解決に取り組むことができる人材の養成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針・教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#sforeign_language_studies）

（概要）

ｶﾃｺﾞﾘｰ	卒業の認定に関する方針	教育課程の編成に関する方針
A-2	外国語による言語活動に関する能力を習得しているとともに、個別領域のみならず複合領域にわたって積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。	外国語による「聞く」「話す」「読む」「書く」能力の習得及び4つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的な言語運用能力を身に付けるための科目を配置する。
A-3	外国語の仕組みと言葉の意味や働きなどの語学的な知識と実践的な運用能力を習得するとともに文学的教養を培い、言語の背景にある多様な文化や社会に関する広い知識を身に付けている。	外国語が持つ言語の特徴等を理論的に理解するとともに、英語圏やフランス語圏の事情や文学・文化・社会に関する知識の習得と異なる文化に対する理解を深めるための科目を配置する。
B-2	様々なジャンルや話題に関する事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら、目的に応じて議論を行う言語運用能力を身に付けている。	国際社会に関する多様な情報を収集し複眼的に分析し、適切に判断して、自らの考えや意見などを形成して発信することができる能力を身に付けるための科目を配置する。
C-2	外国語学分野に関する研究活動に必要となる基礎的な研究方法及び外国語学に関する専門的知識や研究方法を活用し、自ら課題を解決することのできる創造性を身に付けている。	外国語に関する文献講読や資料分析及び調査方法や分析手法などの能力の習得とともに、自らが立てた課題にそれらを適用し解決する能力を身に付けるための科目を配置する。
D-2	外国語学を学ぶ目的及び外国語学を構成する学問体系と基本的な学び方について理解しているとともに、生涯にわたり知識を更新し、自らの資質を向上させる学習態度を身に付けている。	教育研究の対象とする学問分野の理解のもと、大学での学習を遂行するための基本的知識と技術及び卒業後も自律・自立して学習できる生涯学習力を身に付けるための科目を配置する。

【各カテゴリーについて】
A：知識・技能
B：思考力・判断力・表現力等
C：総合的な学修経験・創造性
D：態度・志向性

教育課程の実施に関する方針
①外国語学分野の教育課程の編成をふまえ配置された各授業の内容に応じ、知識の理解を目的とする教育内容について、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採る。
②学生の能動的学修への参加を促すために、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループワーク等をはじめとする教授方法を用いる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#sforeign_language_studies）

（概要）

1．求める学生像

外国語学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。

〔知識・技能〕

①高等学校で履修する主要教科･科目の内容を幅広く理解し、高等学校卒業相当の知識、特に外国語の運用能力を有する者

②本学での学びの基礎となる、外国および自国の文化・社会に関する知識を有する者

〔思考力・判断力・表現力等の能力〕

①知識・技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を有する者

②日本語や英語で自分の考えを口頭や文章により適切に表現し、他者に対して的確に伝えることができる者

〔目的意識・意欲〕

①外国語や外国の文化・社会、国際社会に対する強い興味と関心を持ち、学部教育に対する高い学習意欲を有している者

②多様な言語・文化・価値観を有する人々と協働して主体的に学ぶ姿勢を有する者

2．選抜方法

外国語学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

（1）一般選抜（一般入試、英語 4 技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）、一般･共通テスト併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価する。また、一般入試では英語の配点比率を高くし、外国語学科において専門知識を習得するための英語力を有しているかどうかも含めて判定する。

（2）総合型選抜（総合型入試）

総合型入試では、「学びと探究型」と「活動実績型」に分けて入学者を選抜する。

「学びと探究型」では、調査書および出願者作成の書類（学修計画書、志望理由書等）による書類選考を行ったうえで、課題図書にかんする論述試験および提出書類にもとづく面接を行い、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、本学科への適合性を、書類選考を含めて総合的に判定する。

「活動実績型」では、調査書および出願者作成の書類（学修計画書、活動報告書、志望理由書等）により書類選考を行ったうえで、講義にもとづく論述試験および活動報告書などにもとづく学修計画にかんするプレゼンテーションとグループ・ディスカッションを行い、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を書類選考を含めて総合的に判定する。

（3）学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）

学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

（4）その他の選抜（外国人入試、国際入試（帰国生・IB 生））

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人入試、国際入試（帰国生・IB 生）を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の目的意識・意欲、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　商学部商学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#scommerce）

（概要）

商学科は、商学と会計学の分野における高度な学術理論の教育と研究を通じて、商取引に関する正しい理解を深めさせる。モノとカネの効率的配分や円滑な流通を目的とする商学と企業成果の計算・公表を目的とする会計学について教育することで、問題設定能力とその解決能力を有するとともに、経済社会に柔軟に対応でき、かつ、高い倫理観と高度な専門知識を身に付けたビジネス・パーソンを育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針・教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#scommerce）

（概要）

ｶﾃｺﾞﾘｰ	卒業の認定に関する方針	教育課程の編成に関する方針
A-2	商学分野の知識と技能を適切に獲得・活用することができる。	商学部で取り扱う学問体系を理解し主体的に学修するため、経済社会や企業経営について複眼的に理解するための基礎部門科目を１年次を中心に配置する。
A-3	モノとカネの効率的配分や円滑な流通について理解している。	流通、金融の機能と基本原理及び流通、金融に係る歴史・現状・政策やリスク管理の手法を理解し、これらの知識を現実の商取引に応用する方法を学ぶための商学部門科目を主に２年次より配置する。
A-4	企業成果の計算・公表およびそれらに基づく経営管理について理解している。	会計分野の高度な専門知識や会計情報を作成する能力及び会計情報に基づく経営分析を行う能力を身に付けるための会計学部門科目を主に２年次より配置する。
B-2	経済社会に生起する問題の本質を正しく認識することができる。	流通、金融の機能と基本原理を理解し、これらの知識を現実の商取引の理解に応用する能力を修得するための商学部門科目や、会計分野の高度な専門知識を持ち、会計情報に基づく経営分析を行う能力を修得するための会計学部門科目を、主に２年次より配置する。
C-2	経済社会に柔軟に対応でき、かつ、高い倫理観と高度な専門知識を身に付けている。	高度な倫理観に支えられた論理的な思考力を修得するための商学部門・会計学部門科目や、グローバル社会でのビジネス・コミュニケーション能力を高め、ビジネスでの問題解決に向けたアイデアを立案・実行する創造性を修得するための研究・応用部門科目を３年次及び４年次を中心に配置する。
D-2	専攻する分野を中心に、学問や社会の基本原理や真理について、自律的に探究することができる。	ビジネスプロセスで生じる具体的な問題について、専門知識に基づき解決案を導き、新たな環境を創造するよう能動的に取り組むことができるようになるための研究・応用部門科目を３年次及び４年次を中心に配置する。

【各カテゴリーについて】
A：知識・技能
B：思考力・判断力・表現力等
C：総合的な学修経験・創造性

教育課程の実施に関する方針
①商学分野の教育課程の編成をふまえ配置された各授業の内容に応じ、知識の理解を目的とする教育内容について、講義形式

D：態度・志向性	を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採る。 ②少人数制で運用される演習科目においては、自己表現力、コミュニケーション能力、問題設定能力とその解決能力を高めるため、プレゼンテーションやディスカッション等の教授方法を用いる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#scommerce）

（概要）

1．求める学生像

商学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。

〔知識・技能〕

①高等学校で履修する主要教科・科目の内容を幅広く理解し、高等学校卒業相当の知識を有する者

②現代の経済・社会問題や企業等の経営課題に関する基礎的知識を有する者

〔思考力・判断力・表現力等の能力〕

①課題解決に必要な論理的思考ができ、知識・技能を活用した判断・表現ができる能力を有する者

②多様な人々と協働するうえで必要となるコミュニケーション能力を有する者

③課題を主体的に発見し、チームで協働しながら、構想を実現させる能力を有する者

〔目的意識・意欲〕

①高度な倫理観に支えられた問題意識を持つ旺盛な知的好奇心のある者

②商学や会計学などの諸領域について広範かつ専門的な知識の学修を通じて、自らが立てた将来の目標の実現を図る志の高い知的柔軟性のある者

2．選抜方法

商学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

（1）一般選抜（一般入試、英語４技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）、一般･共通テスト併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。

（2）総合型選抜（総合型入試）

総合型選抜では、日商リテールマーケティング（販売士）検定や日商簿記検定などの資格取得を出願資格に加えることにより、商学科での学びに強い興味を持ち、その能力を維持発展させる意欲のある者を評価する。総合型選抜では、調査書、志望理由書および学修計画書による書類選考を行う。そのうえで、受験者には、小論文、学修計画に関するプレゼンテーションおよび面接を課し、出願時の提出書類を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。

（3）学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）

学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

（4）その他の選抜（外国人入試、国際入試（帰国生・IB 生））
多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人、帰国生及び国際バカロレア資格取得者のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　商学部経営学科

教育研究上の目的（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#management）

（概要）
経営学科は、経営学と経営情報学の分野における高度な学術理論の教育と研究を通じて、企業経営に関する正しい理解を深めさせる。現代の経済活動の重要な一翼を担っている企業の経営について、思想・戦略・組織・ヒト・モノ・カネ・情報・国際・環境などの観点から多面的に教育することで、高度な倫理観・理解力・構想力・表現力及び対人関係形成能力を備えた優れたビジネス・パーソンを育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針・教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#management）

（概要）

ｶﾃｺﾞﾘｰ	卒業の認定に関する方針	教育課程の編成に関する方針
A-2	経営学分野の知識と技能を適切に獲得・活用することができる。	商学部で取り扱う学問体系を理解し主体的に学修するため、経済社会や企業経営について複眼的に理解するための基礎部門科目を 1 年次を中心に配置する。
A-3	現代の経済活動の重要な一翼を担っている企業の経営について理解している。	現代の経済社会における問題と経済活動の重要な一翼を担う企業の経営について、理論と実態調査に基づいて正確に理解するための経営学部門科目を主に 2 年次より配置する。
A-4	戦略・組織・情報技術・国際などの観点から多面的に経営を理解することができる。	アプリケーション、データベース、ネットワークについて基礎的な技法を修得し、経済社会や経営の分析に活用するための経営情報学部門科目を主に 2 年次より配置する。
B-2	経済社会に生起する問題の本質を正しく認識することができる。	現代の経済社会における問題と経済活動の重要な一翼を担う企業の経営について、理論と実態調査に基づいて正確に理解するための経営学部門科目や、データベース、ネットワーク、シミュレーションについて基礎的な知論と技法を修得し、IT 社会や経営の分析に活用するための経営情報学部門科目を、主に 2 年次より配置する。
C-2	経済社会に柔軟に対応でき、かつ、高い倫理観と高度な専門知識を身に付けている。	高度な倫理観に支えられた論理的な思考力を修得するための経営学部門・経営情報学部門科目や、グローバル社会でのビジネス・コミュニケーション能力を高め、ビジネスでの問題解決に向けたアイデアを立案・実行する創造性を修得するための研究・応用部門科目を 3 年次及び 4 年次を中心に配置する。
D-2	志高くビジネス・パーソンとして広く社会へ貢献することができる。	ビジネスプロセスで生じる具体的な問題について、専門知識に基づき解決案を導

		き、新たな環境を創造するよう能動的に取り組むことができるようになるための研究・応用部門科目を3年次及び4年次を中心に配置する。

【各カテゴリーについて】
A：知識・技能
B：思考力・判断力・表現力等
C：総合的な学修経験・創造性
D：態度・志向性

教育課程の実施に関する方針
①経営学分野の教育課程の編成をふまえ配置された各授業の内容に応じ、知識の理解を目的とする教育内容について、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採る。
②少人数制で運用される演習科目においては、自己表現力、コミュニケーション能力、問題設定能力とその解決能力を高めるため、プレゼンテーションやディスカッション等の教授方法を用いる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#management）

（概要）
1．求める学生像
経営学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。
〔知識・技能〕
①高等学校で履修する主要教科・科目の内容を幅広く理解し、高等学校卒業相当の知識を有する者
②現代の経済・社会問題や企業等の経営課題に関する基礎的知識を有する者
〔思考力・判断力・表現力等の能力〕
①課題解決に必要な論理的思考ができ、知識・技能を活用した判断・表現ができる能力を有する者
②多様な人々と協働するうえで必要となるコミュニケーション能力を有する者
③課題を主体的に発見し、チームで協働しながら、構想を実現させる能力を有する者
〔目的意識・意欲〕
①高度な倫理観に支えられた問題意識を持つ旺盛な知的好奇心のある者
②経営学や経営情報学などの諸領域について広範かつ専門的な知識の学修を通じて、自らが立てた将来の目標の実現を図る志の高い知的柔軟性のある者
2．選抜方法
経営学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。
（1）一般選抜（一般入試､英語4技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）､一般･共通テスト併用型入試）
高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。
（2）総合型選抜（総合型入試）
総合型選抜では、日商リテールマーケティング（販売士）検定や基本情報技術者試験などの資格取得を出願資格に加えることにより、経営学科での学びに強い興味を持ち、その

能力を維持発展させる意欲のある者を評価する。総合型選抜では、調査書、志望理由書および学修計画書による書類選考を行う。そのうえで、受験者には、小論文、学修計画に関するプレゼンテーションおよび面接を課し、出願時の提出書類を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。

（3）学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）

学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

（4）その他の選抜（外国人入試、国際入試（帰国生・IB 生））

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人、帰国生及び国際バカロレア資格取得者のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　経済学部経済学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#seconomics）

（概要）

経済学科は、経済学の理論体系、実証分析、政策分析、経済の歴史的分析及び現実経済の把握に関する諸分野の科目を有機的かつ総合的に教授し、日本と地域社会を中心とした経済社会の仕組みの構造と実態を理解させるとともに、データを科学的に分析し、先入観にとらわれない合理的結論を導き出す経済学的思考方法を鍛錬することによって、種々の経済社会問題に対する実践的解決法を見出す能力を有する人材を育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針・教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#seconomics）

（概要）

ｶﾃｺﾞﾘｰ	卒業の認定に関する方針	教育課程の編成に関する方針
A-2	経済理論と実証分析の基礎を理解し、市場の役割と限界や数量的分析の有用性を認識できる。	経済理論の基礎を学び、経済学的な思考に基づいて現実の経済現象を理解するための初級の理論経済科目と、数量分析の基礎を理解するための科目を、それぞれ 1 年次及び 2 年次を中心に配置する。
A-3	経済政策や経済史、応用経済学の基礎を理解し、現実経済・社会の実態を多面的に把握できる。	現代経済の実態を歴史的に分析するための経済史科目や、日本経済の現状と課題及び、環境・労働・地理と経済の関係を理解する入門的な経済学科目を、それぞれ 1 年次より配置する。
A-4	経済学分野及び隣接する分野の知識と技能を、適切に獲得･活用することができる。	グローバリゼーションの実態と日本を含む世界全体の諸相を広く学ぶ国際経済や外国語関連等の科目を、1 年次より配置する。
B-2	経済学特有の思考方法を身に付け、論理的な議論や合理的な意思決定ができる。	より高度な経済理論を用いて、現実の社会経済を分析する能力を養うために、中級以上の理論経済学科目と、財政・金融・環境・産業・労働・社会保障等の応用経済学科目を、それぞれ 3 年次を中心に配置する。
B-3	データを科学的に分析し、先入観にとらわれずに客観的な結論を導き出し、自分の考えを表現することができる。	経済データの特性を理解し、それらを有効に活用するために必要な基礎知識を学ぶとともに、実証分析の基礎と応用について実践的に学ぶ統計・計量経済・簿記・会計

		関連科目を、2年次を中心に配置する。
C-2	経済社会の諸問題を理解し、経済学的な視点で実践的解決法を見出すことができる。	経済学的な視点を学びながら、少人数で様々なテーマについて協力して研究を行う場であり、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を鍛える演習科目を、1年次より配置する。
D-2	経済社会の変化に適切に対応するため、経済学等の理解を通じて今後の見通しを立てることができる。	経済学の実践的な知識と応用力を身に付け、世界の中での日本経済の諸課題を解決するための演習科目等を、3 年次を中心に配置する。

【各カテゴリーについて】
A：知識・技能
B：思考力・判断力・表現力等
C：総合的な学修経験・創造性
D：態度・志向性

教育課程の実施に関する方針
①経済学分野の教育課程の編成をふまえ配置された各授業の内容に応じ、知識の理解を目的とする教育内容について、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採る。
②少人数で様々なテーマについて協力して研究を行う演習科目や具体的な計算等を行う演習科目においては、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力といった実用的能力を身に付けるため、ディスカッションやプレゼンテーション等の教授方法を用いる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#seconomics）

（概要）
1．求める学生像
　経済学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。
〔知識・技能〕
①高等学校で履修する主要教科・科目の内容を幅広く理解し、高等学校卒業相当の知識を有する者
②グローバル化された世界における新しい価値観を理解し、社会・経済・環境等の課題に取り組むために必要な基礎的知識や技能を有する者
〔思考力・判断力・表現力等の能力〕
①知識・技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を有する者
②高等学校の国語で学んだ文章の読解力及び構成力と、数学で学んだ論理的な説明力を有する者
③多様な文化や価値観を受け入れ、地域社会でその人々と協働して課題解決に取り組む能力を有する者
〔目的意識・意欲〕
①経済問題・社会問題を分析する能力を学修するため、経済学科への入学を強く志望する者

②地域社会及び国内外で起こっている様々な問題に日頃より関心を持ち、経済学的な視点と思考方法を活用してその実践的解決を目指す意欲を持った者
③日本や世界の歴史と変化に強い関心を持ち、多様な文化や価値観を受け入れ、未来を展望する視点と思考方法を得ようとする者

2. 選抜方法

経済学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

(1) 一般選抜（一般入試、英語4技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）、一般･共通テスト併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかどうかを評価して判定する。また、一般･共通テスト併用型入試では、合否判定に利用する科目として大学入学共通テストから必ず数学を選択するなど、経済学科において専門知識を修得するための数学的能力を有しているかどうかも評価する。

(2) 総合型選抜（総合型入試）

総合型入試では、受験者の基礎的な知識や技能、思考力・判断力・表現力等、主体性や協調性、そして本学での学修の意欲を、調査書および出願者作成の書類（学修計画書、活動報告書、志望理由書等）により書類選考を行ったうえで、講義にもとづく試験、そして面接によって、多面的・総合的に評価して判定する。

(3) 学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）

学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲のみならず、知識・技能、思考力･判断力・表現力等を総合的に評価して判定する。

(4) その他の選抜（外国人入試、国際入試（帰国生・IB生））

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人、帰国生及び国際バカロレア資格取得者のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の目的意識・意欲のみならず、知識・技能、思考力･判断力・表現力等を総合的に評価して判定する。

学部等名　経済学部国際経済学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#international_economics）

（概要）

国際経済学科は、先入観にとらわれない合理的な経済学的思考方法の研鑽に加えて、国際社会の変化と国際経済及びビジネスのグローバル化の諸現象と相互の関連性、並びにそこから派生する諸問題の分析手法と対処方法の考え方を教授し、歴史・伝統・習慣・文化・宗教等の異なる諸外国との交流に役立つ語学力を基礎とした幅広い国際感覚を養成することによって、社会の国際化に寄与しうる人材を育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針・教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#international_economics）

（概要）

ｶﾃｺﾞﾘｰ	卒業の認定に関する方針	教育課程の編成に関する方針
A-2	国際社会の変化とビジネスのグローバル化について、歴史や文化等の観点から自分の考えを説明できる。	グローバリゼーションの実態や世界全体の諸相について理解を深めることができるよう、テーマに沿って複数の国や地域を横断的に学ぶ科目、日本と関係の深い諸国の経済について専門的に学ぶ科目、政治経済・社会・文化等の多様な側面から歴史的に分析する科目を、1年次より配置する。
A-3	モノ・カネ・ヒト・情報の国境を越えた移	人々の自由な意思決定に基づいて行われ

	動について、市場が果たす役割と限界を理解できる。	るモノ･ヒト･カネ･情報の国境を越えた移動がもたらす経済的成果と限界及び、これらに対する政府の介入の意義を考察するための理論経済学科目を、1 年次及び 2 年次を中心に配置する。
A-4	外国語で発信された経済及び隣接分野に関する情報を収集し、正しく理解することができる。	経済に関する専門的な英語文献を理解するための科目や、実践的な会話を重視し英語運用能力を向上させる科目、また、中国語や韓国語を学習する科目を、1 年次及び 2 年次を中心に配置する。
B-2	現実の国際問題・経済問題を経済学特有の思考方法等に基づいて考え、判断することができる。	労働・環境・社会保障等の分野における各種政策の意義を国際比較を通じて学ぶ科目や、海外事例を含む財政・金融の仕組みを学ぶ科目を、2 年次及び 3 年次を中心に配置する。
B-3	経済及び隣接する分野のデータを理解し、必要に応じて適切に収集、加工することができる。	経済データの特性を理解し、それらを目的に応じて有効に活用するために必要な基礎知識を学ぶ科目を、2 年次を中心に配置する。
C-2	国際経済等の諸問題を理解し、国際経済等についての学びを活用した実践的解決法を見出すことができる。	少人数で様々なテーマについて協力して研究を行う場であり、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を鍛える演習科目を、1 年次より配置する。
D-2	国際社会の変化に適切に対応するため、国際経済に関する専門知識を活用して今後の見通しを立てることができる。	経済学の実践的な知識と応用力を身に付け、世界の中での日本経済の諸課題を解決するための演習科目等を、3 年次を中心に配置する。

【各カテゴリーについて】
A：知識・技能
B：思考力・判断力・表現力等
C：総合的な学修経験・創造性
D：態度・志向性

教育課程の実施に関する方針
①経済学分野の教育課程の編成をふまえ配置された各授業の内容に応じ、知識の理解を目的とする教育内容について、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採る。
②少人数で様々なテーマについて協力して研究を行う演習科目や具体的な計算等を行う演習科目においては、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力といった実用的能力を身に付けるため、ディスカッションやプレゼンテーション等の教授方法を用いる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#international_economics）

（概要）

1．求める学生像

国際経済学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。

〔知識・技能〕

①高等学校で履修する主要教科・科目の内容を幅広く理解し、高等学校卒業相当の知識を有する者

②グローバル化された世界における新しい価値観を理解し、社会・経済・環境等の課題に取り組むために必要な基礎的知識や技能を有する者

〔思考力・判断力・表現力等の能力〕

①知識・技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を有する者

②高等学校の国語で学んだ文章構成力と、英語で学んだ読解力及びコミュニケーション能力を有する者

③多様な文化や価値観を受け入れ、国際社会でその人々と協働して課題解決に取り組む能力を有する者

〔目的意識・意欲〕

①国際問題・経済問題を分析する能力を学修するため、国際経済学科への入学を強く志望する者

②国際社会で起こっている様々な問題に日頃より関心を持ち、経済学的な思考方法と外国語によるコミュニケーション能力を活用してその実践的解決を目指す意欲を持った者

③日本や世界の歴史･伝統･文化を深く理解し、多様な価値観を受け入れ、海外経験を通じて国際的な教養を身に付けたいと強く望む者

2．選抜方法

国際経済学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

（1）一般選抜（一般入試、英語 4 技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）、一般･共通テスト併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかどうかを評価して判定する。また、一般･共通テスト併用型入試では、合否判定に利用する科目として一般入試から必ず英語を選択するなど、国際経済学科において専門知識を修得するための語学力を有しているかどうかも評価する。

（2）総合型選抜（総合型入試）

総合型入試では、受験者の基礎的な知識や技能、思考力・判断力・表現力等、主体性や協調性、そして本学での学修の意欲を、調査書および出願者作成の書類（学修計画書、活動報告書、志望理由書等）により書類選考を行ったうえで、講義にもとづく試験、そして面接によって、多面的・総合的に評価して判定する。

（3）学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）

学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲のみならず、知識・技能、思考力･判断力・表現力等を総合的に評価して判定する。

（4）その他の選抜（外国人入試、国際入試（帰国生・IB 生））

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人、帰国生及び国際バカロレア資格取得者のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の目的意識・意欲のみならず、知識・技能、思考力･判断力・表現力等を総合的に評価して判定する。

学部等名　法学部法律学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#slaw）

（概要）

法律学科は、法学及び政治学の専門学智を修め、怜悧な識見を養うとともに、多様な価値観への理解を促し、公共の精神の涵養に努め、変容する現代社会に対する批判的思考力を育み、多方面にわたる社会活動に貢献できる人格の育成を図ることを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針・教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#slaw）

（概要）

ｶﾃｺﾞﾘｰ	卒業の認定に関する方針	教育課程の編成に関する方針
A-2	現代社会とそこに至る過去を踏まえ、現代社会の実情を把握し、それと関連する法律やその基礎的な概念および理論を適切に認識することができる。	法学全体の基礎およびその根幹をなす現代社会の実情を把握・認識する導入科目を1年次に配当し、それを前提として法学の中核となる専門的知識を理解するための基本科目を1～2年次に配置する。
A-3	法学の中核をなす基礎的な概念および理論を理解し、現代社会における具体的な実情に向き合うことができる。	
B-2	法学のより高度な概念および理論を現代社会の実情に適用・応用する過程およびその結果を明確に提示することができる。	法学の高度な知識を修得し、それを用いた法的思考・法的解釈を提示するための基本科目および専門演習（演習・実務関連科目）を2年次以降に配置し、国内外の社会の実情を理解し、法的思考・法的解釈を異なる視点から比較するための国際関係法・政治学科目を2年次から配置する。
B-3	法学の概念および理論を幅広く学び、それらを現代社会の実情に適用・応用するため、複数の視点から比較検討することができる。	
C-2	変容する国内外や現代社会の諸現象に関する課題を理解し、自らその解決にむけて法学の概念および理論のみにとらわれない広い視野と批判的見地から検討をすることができる。	法学の概念・理論を前提として、2～4年に国内の先端的な法的問題を理解・解決する力を身につける発展科目および専門演習（演習・実務関連科目）を配置し、この問題の理解・解決を諸外国の法制度や政治など幅広い見地から行うための国際関係法・政治学科目を2年次以降に配置する。
C-3	変容する国内外や現代社会の諸現象の課題を解決するため、あるべき社会を展望して新たな秩序を形成することへ、法学のみにとらわれない広い視野から能動的に参与することができる。	
D-2	人権意識・遵法意識と倫理観を備え、公平・公正な観点から社会における多様性を受容し、現代社会の諸現象に敏感に反応するための成熟した資質を身に着け、行動することができる。	法学の概念および理論の社会における運用（実務など）を知るための応用法律学および実務科目（演習・実務関連科目）を配置し、さらに、実務という社会現象に多様性を理解したうえで応じる成熟した資質と国際的な障壁をいとわずに他者と積極的に関わる力を身につけるための外国語に関する科目を配置する。
D-3	地域社会や国際社会を基礎づける多種多様な価値観に基づき、独立した個人として、自ら進んで学ぶ高い意欲を身に着け、適切にかつ積極的に市民社会を担うことができる。	

【各カテゴリーについて】
A：知識・技能
B：思考力・判断力・表現力等
C：総合的な学修経験・創造性
D：態度・志向性

教育課程の実施に関する方針
①法律学分野の教育課程の編成をふまえ配置された各授業の内容に応じ、知識の理解を目的とする教育内容について、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能

	を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採る。
	②演習・実務関連科目を中心に、専門学智と批判的思考力を体得するための双方向的少人数ゼミナール形式の教育を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#slaw）

（概要）

1．求める学生像

法律学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備え、かつ、大学での学修に必要な基礎学力を有している者を求める。

〔知識・技能〕

高等学校で履修する主要教科・科目の内容を幅広く理解し、高等学校卒業相当の知識を有する者

〔思考力・判断力・表現力等の能力〕

①知識・技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を有する者

②法学・政治学の専門学智、多様な価値観の理解、及び批判的思惟の力を修得できる学習力を有する者

③現代社会の動態をみつめ、あらたな秩序形成に寄与できる識見を修得できる学習力を有する者

〔目的意識・意欲〕

多方面にわたる社会活動に貢献することに意欲的な者

2．選抜方法

法律学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

（1）一般選抜（一般入試、英語４技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）、一般･共通テスト併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。また、一般･共通テスト併用型入試では、合否判定に利用する科目として一般入試から必ず英語を、大学入学共通テストから数学を採用するなど、法律学科において専門知識を修得するための語学力及び数学的思考力を有しているかも併せて評価する。

（2）総合型選抜（総合型入試）

総合型入試では、受験者に小論文と面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。

（3）学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）

学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

（4）その他の選抜（外国人入試、国際入試（帰国生・IB 生））

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人、帰国生及び国際バカロレア資格取得者のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の目的意識・意欲、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　法学部国際関係法学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#internationallaw）

（概要）

国際関係法学科は、社会の国際化に起因する諸現象を法的・政治的観点から学術的に深く掘り下げて理解しうる識見を養い、普遍的な視野と共生の精神の涵養に努め、多様な活動の場において国際社会の課題に取り組み、異文化交流に貢献できる人格の育成を図ることを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針・教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#internationallaw）

（概要）

ｶﾃｺﾞﾘｰ	卒業の認定に関する方針	教育課程の編成に関する方針
A-2	過去を踏まえて国際社会の実情を把握し、それと関連する国際関係法学の基礎的な概念および理論を適切に認識することができる。	国際関係法学全体の基礎およびその根幹をなす現代社会の実情を把握・認識する導入科目を１年次に配当し、それを前提として法学の中核となる専門的知識を理解するための国際関係法学・政治学・法律学の基本科目を1～3年次に配置する。
A-3	国際社会の実情に向き合うために、国際関係法学の基礎的な概念および理論を精確に理解することができる。	
B-2	国際関係法学の基礎的な概念および理論を国際社会の実情に応用し、その結果を明確に提示することができる。	国際関係法学の高度な知識を修得し、それを用いた法的思考・法的解釈を提示するための国際関係法学・政治学の発展科目および専門演習（演習・実務関連科目）を2～3年次にかけて配置し、国内外の社会の実情を理解し、法的思考・法的解釈を異なる視点から比較するための法律科目を２年次に配置する。
B-3	国際関係法学の発展的な概念および理論を幅広く学び、国際社会の実情を複数の視点から分析することができる。	
C-2	変容する国際社会の諸現象に関する課題を発見し、国際関係法学のみにとらわれない広い視野と批判的見地から評価することができる。	国際関係法学の概念・理論を前提として、2～4年に先端的な法的問題を理解・解決する力を身につける国際関係法学・政治学の発展科目および専門演習（演習・実務関連科目）を配置し、この問題の理解・解決を諸外国の法制度や政治など幅広い見地から行うための法律科目を 2～3 年次に配置する。
C-3	変容する国際社会の諸現象の課題を解決するため、あるべき国際社会を展望して新たな秩序を形成することへ、国際関係法学のみにとらわれない広い視野から能動的に参与することができる。	
D-2	人権・遵法意識と倫理観を備え、公平・公正な観点から国際社会における多様性を受容し、国際社会の諸現象に敏感に反応することができる。	法的問題解決力を身に付けるための発展法律科目を２年次及び３年次を中心に配置し、法的な議論を行うことができる力を身に付けるための演習・実務関連科目を１年次より配置する。
D-3	国際社会を基礎づける多種多様な価値観に基づき、独立した個人として自ら進んで学ぶ高い意欲を身に着け、積極的に市民社会を担うことができる。	

【各カテゴリーについて】
A：知識・技能
B：思考力・判断力・表現力等
C：総合的な学修経験・創造性
D：態度・志向性

教育課程の実施に関する方針
①国際関係法学分野の教育課程の編成をふまえ配置された各授業の内容に応じ、知識の理解を目的とする教育内容について、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式に

	よる授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採る。
	②演習・実務関連科目を中心に、専門学智と批判的思考力を体得するための双方向的少人数ゼミナール形式の教育を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#internationallaw）

（概要）

1．求める学生像

国際関係法学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識・意欲を備え、かつ、大学での学修に必要な基礎学力を有している者を求める。

〔知識・技能〕

高等学校で履修する主要教科・科目の内容を幅広く理解し、高等学校卒業相当の知識を有する者

〔思考力・判断力・表現力等の能力〕

①知識・技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を有する者。

②法学・政治学の専門学智、多様な価値観の理解、及び批判的思惟の力を修得できる学習力を有する者

③変容する国際社会の秩序形成に寄与できる識見及び国際化に起因する諸現象を法的・政治的観点から学術的に深く掘り下げて理解しうる識見を修得できる学習力を有する者

〔目的意識・意欲〕

多様な文化を受容し、異文化交流に貢献することに意欲的な者

2．選抜方法

国際関係法学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

（1）一般選抜（一般入試、英語 4 技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）、一般･共通テスト併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。また、一般･共通テスト併用型入試では、合否判定に利用する科目として一般入試から必ず英語を、大学入学共通テストから数学を採用するなど、国際関係法学科において専門知識を修得するための語学力及び数学的思考力を有しているかも併せて評価する。

（2）総合型選抜（総合型入試）

総合型入試では、受験者に小論文と面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。

（3）学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）

学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

（4）その他の選抜（外国人入試、国際入試（帰国生・IB 生））

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人、帰国生及び国際バカロレア資格取得者のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の目的意識・意欲、理解力･思考力･表現

力を総合的に評価して判定する。

学部等名　人間科学部児童教育学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#child_education）

（概要）

児童教育学科は、キリスト教主義による人間教育の理念に基づいて教育を行い、教育・保育の分野に関する専門的知識と技能の習得を通じて、これらの分野の専門家である保育士、幼稚園教諭、小学校教諭などを養成するとともに、これらの専門的知識と技能を活かして社会に貢献しうる人間を育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針・教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#child_education）

（概要）

ｶﾃｺﾞﾘｰ	卒業の認定に関する方針	教育課程の編成に関する方針
A-2	保育学・教育学及び関連する分野の基本的な概念や理論を修得し、知識と技能を身につけることで、社会事象を専門的見地から理解することができる。	「保育・福祉に関する科目」や「教育・心理に関する科目」等を中心に、保育・教育分野の基本的知識及び技能を修得するための科目を１年次より系統的・段階的に配置し、また現実場面で実践できる能力を身に付けるための科目を２年次より系統的・段階的に配置する。
B-2	保育・教育の対象としての幼児・児童の理解、内容・方法の活用に関する理解、及び関わる人々の共同体の一員としての相互理解の下、適切に判断し行動することができる。	「保育・福祉に関する科目」や「教育・心理に関する科目」及び「教科研究に関する科目」等を中心に、幼児・児童の育ちと学びに係る実際的な支援に必要な応用的能力とともに広汎なコミュニケーション能力等を身に付けるための科目を２年次より系統的・段階的に配置する。
C-2	修得した資質・能力を活用し、社会実践に主体的に参画して、多様な人々と協働しながら任務を遂行することができる。	「保育実習」「教育実習」「教職実践演習」「演習・卒業論文に関する科目」等を中心に、保育・教育に関する現象の中から解決すべき課題を自ら発見し、そのための道筋を構想することができる能力を身に付けるための科目や実践力を身に付けるための科目を3、４年次を中心に配置する。
D-2	保育・教育の分野を中心に、学問や社会の基本原理や真理について、自律的に探究することができる。	「演習・卒業論文に関する科目」及び専門科目の選択科目等を中心に、自律的な修学意欲や興味に応じて学びを深めるための科目や保育・教育分野の学問的意義や職業的使命感・倫理観・責任感を継続的に考究するための科目を3,４年次を中心に配置する。

【各カテゴリーについて】
A：知識・技能
B：思考力・判断力・表現力等
C：総合的な学修経験・創造性
D：態度・志向性

教育課程の実施に関する方針
①保育・教育分野の教育課程の編成を踏まえて配置された各授業の教育内容に応じ、下記の４項目に示す授業形態を採る。 ○ 知識・理論及び汎用的な技能等の修得を目的とする教育内容に関しては、講義形式を主とした授業を以て行う。 ○ 思考力・判断力・表現力等の修得を目的

	とする教育内容に関しては、演習形式を主とした授業を以て行う。 ○ 現実場面や実務等に即した実践力の修得を目的とする教育内容に関しては、実習・実技・実験形式を主とした授業を以て行う。 ○ 主体的に課題を発見し解決しようとする意欲や生涯にわたる自律的な修学態度等の修得を目的とする教育内容に関しては、演習形式を主とした授業のほか、卒業論文の執筆・発表や卒業研究の公演・発表等の場を以て行う。
	②各授業の教育内容に応じ、 演習科目や保育内容・指導法及び教科内容・指導法などに関する科目を中心に少人数で学修を行い、調査・報告・討論や模擬的実践・検証、また実験・実習等を活用する教授方法を用いる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#child_education）

（概要）

1. 求める学生像

児童教育学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。

〔知識・技能〕

①高等学校で履修する教科・科目の内容を幅広く理解し、高等学校卒業相当の知識・技能を有する者

②自分をとりまく諸世界（人間･社会･自然など）について学ぶことに関心を持ち、それらに対する基礎的知識・技能を有する者

〔思考力・判断力・表現力等の能力〕

①知識・技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を有する者

②保育･教育活動に幅広く関わる内容への基本的な学習能力を有する者

③事象を客観的に観察し、事実に基づく論理・判断を適切に表現する能力を有する者

〔目的意識・意欲〕

①子どもの保育・教育に関心があり、将来、保育･教育の現場で活動することに意欲的な者

②社会性、規範意識があり、人や社会と関わることに意欲的な者

③多様な価値観・文化背景を理解し、高い協働性を有する者

2. 選抜方法

児童教育学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

（1）一般選抜（一般入試、英語 4 技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）、一般･共通テスト併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。また、一般･共通テスト併用型入試では、合否判定に利用する科目として、大学入学共通テストから必ず数学または理科を採用することなど、児童教育学科において専門知識を修得するための理数的能力を有しているかについても併せて評価する。

（2）総合型選抜（総合型入試）

総合型入試では、英語の資格・検定試験のスコアを出願資格に加えることにより、語学力を有する者を評価する。出願時の学修計画書等により書類選考を行ったうえで、グループディスカッション及び面接を踏まえ、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的・多面的に判定する。

（3）学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）

学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

（4）その他の選抜（外国人入試、国際入試（帰国生・IB 生））

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人、帰国生及び国際バカロレア資格取得者のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の目的意識・意欲、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　人間科学部社会福祉学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#social_welfare）

（概要）

社会福祉学科は、キリスト教主義による人間教育の理念に基づいて教育を行ない、社会福祉の分野に関する専門的知識と技能の習得を通じて、これらの分野の専門家である社会福祉士、精神保健福祉士、保育士などを養成するとともに、これらの専門的知識と技能を生かして社会に貢献しうる人間を育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針・教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#social_welfare）

（概要）

ｶﾃｺﾞﾘｰ	卒業の認定に関する方針	教育課程の編成に関する方針
A-2	社会福祉学及び関連する分野の基本的な概念や理論を修得し、知識と技能を身に付けることで、人と社会を結びつけ、人々の生活上の問題を理解することができる。	「基本科目」や「方法・技術科目」等を中心に、社会福祉の学びの基盤となり、共通する知識と技能を修得するために、社会福祉学及び関連する分野の基本的な概念や理論をミクロのソーシャルワークからマクロのソーシャルポリシーの範囲まで総合的に学習し、人、地域、社会を関連付け、人々の生活上の問題及び社会問題を理解することができるようになるための科目を 1 年次より段階的に配置する。
B-2	人間の尊厳の価値を踏まえて社会福祉の学びの対象となる人と向きあい、人と社会を支えるための思考方法を身に付け、現実のものとして活用できるよう判断することができる。	「基本科目」「方法・技術科目」「専門領域科目」「専門展開科目」等を中心に、社会福祉の基盤や共通した学びを踏まえ、社会福祉の対象となる児童、障害者、高齢者などの人たちを理解し、その人たちや社会を支えるために必要な思考方法を身に付け、現実のものとして活用できるようになるための科目を 1 年次から 3 年次を中心に配置する。
C-2	社会的支援が必要な問題等を発見し、修得した資質・能力を主体的・創造的に活用して、多様な人々と協働しながら解決に向けて取り組むことができる。	「技術演習・実習科目」や「専門演習・卒業論文」等を中心に、社会福祉に関する諸問題を自ら発見し、実践現場に参画しながら関係するさまざまな人々と協働し、主体的に解決することができる能力を身に付

		けるための科目を3年次及び4年次を中心に配置する。
D-2	社会福祉の分野を中心に、学問の価値、基本原理、真理について、自律的に探求することができる。	「基本科目」「方法・技術科目」「専門領域科目」等を中心に社会福祉の分野での学びや社会活動において学問の価値・原理・真理について自律的かつ持続的に探求するために必要な科目を1年次から段階的に配置する。

【各カテゴリーについて】
A：知識・技能
B：思考力・判断力・表現力等
C：総合的な学修経験・創造性
D：態度・志向性

教育課程の実施に関する方針
①社会福祉分野の教育課程の編成を踏まえて配置された各授業の内容に応じ、知識の理解を目的とする教育内容について講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の習得を目的とする教育内容については演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については実習形式や実践形式を交えた授業形態を採る。
②基本科目など講義形態での講話のほか、技術演習・実習科目や専門演習科目についてはグループワークやグループ討議といった教授方法を用いる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#social_welfare）

（概要）
1．求める学生像
社会福祉学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。
〔知識・技能〕
①高等学校で履修する主要教科・科目の内容を幅広く理解し、高等学校卒業相当の知識を有する者
②人間とその社会の仕組みについての基礎知識を学んできた者
〔思考力・判断力・表現力等の能力〕
①知識・技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を有する者
②地域や社会に参画する能力を有し、倫理規範を備えた者
〔目的意識・意欲〕
①人と環境について学ぶことに関心をもち、多様な人々の価値観を尊重し、社会支援のあり方を探求する意思を有する者
②将来、社会に貢献する意欲をもち、特に社会福祉分野に自らの課題を見出そうとする者
2．選抜方法
社会福祉学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。
(1) 一般選抜（一般入試、英語4技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）、一般･共通テスト併用型入試）
高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有してい

るかを評価して判定する。
（2）総合型選抜（総合型入試）
総合型入試では、高校時の諸活動を評価する活動実績型と、社会人としての活動や経験を評価する社会人対象を実施する。受験者に小論文と面接を課し、出願書類と併せて受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性、および規範意識等を総合的・多面的に判定する。
（3）学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）
学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。また、社会福祉学科として独自に、福祉科、介護福祉科等を設置する高校から福祉関係コースで学ぶ生徒の推薦を受け入れ、社会福祉学科での学びに強い関心を持ち、高校での学びを維持発展させる意欲のある者を対象とする。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。
（4）その他の選抜（外国人入試、国際入試（帰国生・IB 生））
多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人、帰国生及び国際バカロレア資格取得者のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の目的意識・意欲、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　人間科学部心理学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#psychology）

（概要）
心理学科は、心理学の分野に関する専門的知識と技能の習得を通じて、様々な事態において人の心を科学的に調査及び分析できる専門的な知識技術をもつ人材を養成するとともに、人間関係調整能力等をもち、応用力を備えた人材を育成し、グローバルな視点から社会に貢献しうる人間を育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針・教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#psychology）

（概要）

ｶﾃｺﾞﾘｰ	卒業の認定に関する方針	教育課程の編成に関する方針
A-2	人間一般の心の機能について説明することができる。	「基礎専門に関する科目」や「応用専攻科目（認知領域）」等を中心に、認知心理学に関連する基礎から応用に至るまでの知識を修得するための科目を１年次より系統的・段階的に配置する。
A-3	人間の生涯にわたる成長や発達について説明することができる。	「基礎専門に関する科目」や「応用専攻科目（教育・発達領域）」等を中心に、教育心理学及び発達心理学に関連する基礎から応用に至るまでの知識を修得するための科目を１年次から系統的・段階的に配置する。
A-4	日常場面や産業場面において、他者との関わりや状況の影響を受ける人間行動について説明することができる。	「基礎専門に関する科目」や「応用専攻科目（社会・産業領域）」等を中心に、社会心理学に関連する基礎から応用に至るまでの知識を修得するための科目を１年次から系統的・段階的に配置する。
A-5	心身の健康・ストレス、および心理的援助に関する基本について説明することができる。	「基礎専門に関する科目」や「応用専攻科目（臨床領域）」等を中心に、臨床心理学に関連する基礎から応用に至るまでの知

		識を修得するための科目を1年次から系統的・段階的に配置する。
A-6	心理学の基礎的な手法である研究技法や測定技法、分析技法の知識を習得し説明することができる。	「研究法に関する科目」や「実験・実習に関する科目」等を中心に、心理学における基礎的な手法に関する知識と技能を身に付けるための科目を1年次及び2年次を中心に配置する。
A-7	実践場面や心理学的支援において必要となる、隣接する関連分野の知識を習得し説明することができる。	「応用専攻科目（臨床領域）」等を中心に、実践場面や臨床場面で必要となる基本的知識や技能を身に付けるための科目を1年次から配置する。
B-2	心理学的な視点から、グローバルな事象について考察することができる。	「応用専攻科目（文化・環境領域）」等を中心に、文化や環境と人間の行動やこころとの影響過程について理解し、心理学的な視点から考察する能力を身に付けるための科目を1年次から系統的・段階的に配置する。
B-3	コミュニケーション能力およびカウンセリングマインドを身に付け、対人関係の支援や円滑な人間関係の構築・ 維持に活用することができる。	「応用専攻科目（臨床領域）」及び「実験・実習に関する科目」等を中心に、対人場面や心理学的支援において有効なコミュニケーション能力や心理学的技法を身に付けるための科目を2年次及び3年次を中心に配置する。
B-4	身の回りの事象の中から心理学的な課題を発見し、課題解決に適切な研究計画を立案し研究を実施することができる。	「研究法に関する科目」や「実験・実習に関する科目」等を中心に、人間行動について科学的・客観的に思考し検証する上で必要な実践的知識と技能を身に付けるための科目を2年次及び3年次を中心に配置する。
B-5	心理ﾃﾞｰﾀを適切な統計手法により分析し、その結果を読み解いてわかりやすく人に伝わるよう表現できる。	「研究法に関する科目」や「実験・実習に関する科目」等を中心に、統計的な分析とプレゼンテーションに関わる実践的知識と技能を身に付けるための科目を1年次から系統的・段階的に配置する。
C-2	日常生活や身近な事象から発見した課題を、心理学的方法に基づいて科学的に検証し解決することができる。	「演習・卒業論文に関する科目」や「実験・実習に関する科目」等を中心に、身に付けた専門性を活かして実践的・模擬的な課題解決を体験し実践力を身に付けるための科目を 3 年次及び 4 年次を中心に配置する。
C-3	修得したコミュニケーション能力を、さまざまな実践場面で活用することができる。	「演習・卒業論文に関する科目」や「実験・実習に関する科目」等を中心に、身に付けた専門性を活かして実践的・模擬的な対人場面や支援場面を体験し実践力を身に付けるための科目を3年次及び4年次を中心に配置する。
D-2	人間についての多面的理解を、自身や身の回りの人の心身の健康や幸福な人生のために役立てることができる。	「応用専攻科目」等を中心に、5 領域にわたる幅広い領域の心理学を理解するための講義科目を1年次から系統的・段階的に配置する。
D-3	的確な情報収集と分析に基づいた客観的な観点から自他の置かれた状況や社会的な現象を捉えようとすることができる。	「実験・実習に関する科目」等を中心に、課題解決型の実習科目を2年次から4年次にわたって配置する。
D-4	心理学的支援に求められる基本的な知識と技術(傾聴、アセスメント)を身につけ、心の援助を必要とする人や社会に対して	「心理演習」や「心理実習」等、心理学的支援に貢献できる実践力を身に付けるための臨床実践科目を3年次から4年次にわ

	適切な支援をすることができる。	たって配置する。

【各カテゴリーについて】
A：知識・技能
B：思考力・判断力・表現力等
C：総合的な学修経験・創造性
D：態度・志向性

教育課程の実施に関する方針
①心理学分野の教育課程の編成を踏まえて配置された各授業の内容に応じ、下記の4項目に示す授業形態を採る。 a)知識・理論及び汎用的な技能等の修得を目的とする教育内容に関しては、講義形式を主とした授業を以て行う。 b)思考力・判断力・表現力等の修得を目的とする教育内容に関しては、演習形式を主とした授業を以て行う。 c)現実場面や実務等に即した実践力の修得を目的とする教育内容に関しては、実習・実践形式を主とした授業を以て行う。 d)主体的に課題を発見し解決しようとする意欲や生涯にわたる自律的な修学態度等の修得を目的とする教育内容に関しては、実習・演習形式を主とした授業のほか、卒業研究の実施と発表等の場を以て行う。
②・各領域一定の科目において、心理学の学修と結びついた実践的な英語力とグローバルな考察力を育成するため英語を用いて行う。 ・実験や実習、研究法、演習等を中心に多くの科目において、実践的能力の修得と主体的学修の促進のため、グループワークやプレゼンテーションを取り入れ、実験・調査・観察・検査等の実施やフィールドでの実習を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#psychology）

（概要）
1．求める学生像
心理学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。
〔知識・技能〕
高等学校で履修する主要教科・科目の内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有する者
〔思考力・判断力・表現力等の能力〕
心理学の学びに必要な理解力、思考力、判断力、表現力等を有する者
〔目的意識･意欲〕
①社会及び人間について学ぶことに関心を持つ者
②他者と協力して課題を発見し、解決することに意欲を持つ者
③心理学の知識を活かして社会に貢献することに意欲を持つ者
2．選抜方法
心理学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。
（1）一般選抜（一般入試､英語4技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）､一般･共通テスト併用型入試）
高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有してい

るかを評価して判定する。また、一般･共通テスト併用型入試では、大学入学共通テストの数学または理科の得点を合否判定に利用し、心理学科において専門知識を修得するための理数的能力を有しているかについても併せて評価する。

（2）総合型選抜（総合型入試）

総合型入試では、数学科目の履修や英語の資格･検定試験のスコアを出願資格に加えることにより、数学的思考力及び語学力を有する者を対象とする。出願者作成の書類（学修計画書、活動報告書、志望理由書）により書類選考を行ったうえで、小論文、グループワーク及び個人面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的・多面的に判定する。

（3）学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）

学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

（4）その他の選抜（外国人入試、国際入試（帰国生・IB 生））

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人、帰国生及び国際バカロレア資格取得者のための入試を実施する。一定の日本語能力を有することを確認したうえで、日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の目的意識・意欲、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　国際文化学部国際文化学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#sintercultural_studies）

（概要）

国際文化学部は、古今東西に存在する多様な文化を、地域文化、比較文化及び表象文化の視点から歴史的・総合的にとらえ、地域と世界、文化と芸術に関する幅広い教養と専門的知識・技能を身につけることによって、地域社会及び国内外の諸課題の解決に主体的に参画、貢献できる人物を育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針・教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#sintercultural_studies）

（概要）

ｶﾃｺﾞﾘｰ	卒業の認定に関する方針	教育課程の編成に関する方針
A-2	多様な文化に関する基礎知識、およびその歴史的・思想的背景に関する幅広い教養を修得している。	大学での学修の前提となる基礎知識と教養を身につけるための文化論部門科目、学部での学修に共通する諸分野について理解を深めるための学部共通部門科目、および資格取得等のための自由選択部門科目を１年次より配置する。
A-3	文化事象について学術的に考察するための専門知識と方法論、および文献読解に必要な語学力を修得している。	系やコースでの学修に必要な専門知識と方法論を修得するために、情報処理に関する科目を１年次より、系・コース専攻部門科目を２年次より、そして高度な語学力を涵養するための専門外国語部門科目を３年次より、それぞれ配置する。
B-2	多様な媒体から信頼しうる情報を取捨選択して適切に活用できるメディア・リテラシー、および異文化理解のために必要な読解力を身につけている。	大学での学修の前提となる基本的なリテラシーと正確な読解力を修得するための演習・卒業論文部門科目（基礎演習）を１年次に設置する。
B-3	読書と議論を通じて自己の意見を柔軟に練り上げるための思考力と対話力、およびそれを明確かつ論理的に表現するための	専門的研究に必要な思索と解釈の力を養い、その表現と発信の方法を実践的に学ぶための演習・卒業論文部門科目（導入演習）

	文章力と発言力を身につけている。	を２年次に配置する。
C-2	歴史と文化についての知識と思索を踏まえて研究課題を自ら設定し、主体的に考察することができる。	自己の問題意識に基づき研究を立案・遂行するプロセスを学ぶための演習・卒業論文部門科目（専門演習）を３年次に、現地での学修や調査を通じて異文化を体得するための自由研究科目を１年次以降に、それぞれ配置する。
C-3	現代社会における文化の役割を理解した上で、異文化間の相互交流と新たな文化の創造に寄与することができる。	学修と異文化体験の成果を学術論文へと創造的に昇華し、その今日的意義を探るための演習・卒業論文部門（卒論演習および卒業論文）を４年次に配置する。
D-2	自己の価値観について客観的に反省できる批判精神、および他者の文化の多様性を理解し尊重できる寛容さを身につけている。	多様な文化を学ぶことを通じて自身のアイデンティティを常に問い直し、柔軟な世界観を養うための専攻科目（全部門）を１年次より設置する。
D-3	学術を単なる手段とみなすことなく、文化を学ぶこと自体に喜びを見出し、その愉悦を他の人々と共有することができる。	教員による研究成果を教育現場へとフィードバックし、学生の知的好奇心と探究心を刺激し鼓舞するための専攻科目（全部門）を１年次より設置する。

【各カテゴリーについて】
A：知識・技能
B：思考力・判断力・表現力等
C：総合的な学修経験・創造性
D：態度・志向性

教育課程の実施に関する方針
①国際文化に関する分野の教育課程の編成をふまえ配置された各授業の内容に応じ、知識の理解を目的とする教育内容について、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採る。
②少人数制で運用される演習科目においては、自己表現力、コミュニケーション能力、問題設定能力とその解決能力を高めるため、プレゼンテーションやディスカッション等の教授方法を用いる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#sintercultural_studies）

（概要）
1．求める学生像
国際文化学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。
〔知識・技能〕
①高等学校卒業に相当する幅広い教養と基礎的な語学力を身につけている者
②本学科における専門的かつ学際的な学びを実現するために必要な、歴史、文化、社会等についての基礎知識を持つ者
〔思考力・判断力・表現力等の能力〕
①世界のさまざまな文化事象に関心を持ち、問題を発見し、解決するための思考力と判断力を持つ者

②自らの考えを他者へ発信するために必要な表現力を持つ者
〔目的意識・意欲〕
文化の多様性を理解しつつ、異文化間の交流と新たな文化の創造に積極的に関与する意思をもち、他者と協働する意欲を持つ者
2. 選抜方法
国際文化学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。
(1) 一般選抜（一般入試、英語4技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）、一般･共通テスト併用型入試）
高等学校での教科・科目における学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な「知識・技能」「目的意識・意欲」「思考力・判断力・表現力等の能力」を有しているかを評価して判定する。
(2) 総合型選抜（総合型入試）
総合型入試では「学びと探究型」と「多言語能力重視型」に分けて入学者を選抜する。
「学びと探究型」では、調査書および出願者作成の書類（志望理由書、学修計画書、独自研究レポート）により書類選考をおこなったうえで、研究レポート内容についてのプレゼンテーションと面接をおこない、基礎知識や技能、思考力・判断力・表現力、主体性や協調性、および本学科への適合性を総合的に評価して判定する。
「多言語能力重視型」では、調査書、志望理由書、学修計画書のほか、英語以外の得意な外国語について検定試験の成績を確認したうえで、小論文試験と面接をおこない、本学科での学修に有益な外国語の能力、思考力・判断力・表現力、主体性や協調性を総合的に評価して判定する。
(3) 学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）
学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。指定校推薦入試では、国語の学習成績の状況を出願資格に加えることにより、国際文化学科において専門知識を修得するための国語力を有する者を評価する。入試では受験者に小論文と面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「目的意識・意欲」を総合的に評価して判定する。
(4) その他の選抜（外国人入試、国際入試（帰国生・IB生））
多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人、帰国生及び国際バカロレア資格取得者のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「目的意識・意欲」を総合的に評価して判定する。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：
https://www.seinan-gu.ac.jp/introduction/public_information/seinan_basic.html#8759

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
―	3人	―					3人
神学部	―	6人	1人	1人	0人	0人	8人
文学部	―	0人	0人	0人	0人	0人	0人

外国語学部	－	25 人	8 人	1 人	4 人	0 人	38 人
商学部	－	21 人	6 人	1 人	1 人	0 人	29 人
経済学部	－	21 人	6 人	0 人	0 人	0 人	27 人
法学部	－	23 人	8 人	1 人	2 人	0 人	34 人
人間科学部	－	34 人	12 人	1 人	0 人	0 人	47 人
国際文化学部	－	14 人	10 人	0 人	5 人	0 人	29 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	369 人	369 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：教員データベースでの公表 https://trinf.seinan-gu.ac.jp/search/

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

「西南学院大学における教育に関するファカルティ・ディベロップメント規程」に基づき、組織的に FD 活動に取り組んでいる。

具体的には、全教職員を対象とした FD 活動として「西南フォーラム」等を開催しているほか、「教育活動に関するアンケート」の実施及び回答内容の共有を通じて、授業科目レベル及び大学レベルにおける FD 活動を行っている。また、各学部・学科においても FD 委員会を開催するなどし、学生に対する教育の充実を図るため、授業の内容及び方法を改善するための活動を行っている。

https://www.seinan-gu.ac.jp/education_study/education_research/fd.html

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
神学部	10 人	15 人	150.0%	40 人	46 人	115.0%	若干名	0 人
文学部	0 人	0 人	0.0%	0 人	3 人	0.0%	若干名	0 人
外国語学部	300 人	325 人	108.3%	1,200 人	1,258 人	104.8%	若干名	0 人
商学部	360 人	378 人	105.0%	1,440 人	1,577 人	109.5%	若干名	0 人
経済学部	360 人	385 人	106.9%	1,440 人	1,531 人	106.3%	若干名	0 人
法学部	410 人	418 人	102.0%	1,640 人	1,760 人	107.3%	若干名	0 人
人間科学部	335 人	376 人	112.2%	1,340 人	1,427 人	106.5%	若干名	1 人
国際文化学部	180 人	170 人	94.4%	720 人	808 人	112.2%	若干名	0 人
合計	1,955 人	2,067 人	105.7%	7,820 人	8,410 人	107.5%	若干名	1 人

（備考）

文学部については、学生募集停止した学部であって、修業年限を超えて在籍する学生のみが在籍する学部。

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
神学部	14 人 （100%）	2 人 （14.3%）	10 人 （71.4%）	2 人 （14.3%）
文学部	2 人 （100%）	1 人 （50.0%）	0 人 （0%）	1 人 （50.0%）
外国語学部	310 人 （100%）	10 人 （3.2%）	278 人 （89.7%）	22 人 （7.1%）
商学部	354 人 （100%）	7 人 （2.0%）	322 人 （91.0%）	25 人 （7.1%）
経済学部	349 人 （100%）	2 人 （0.6%）	325 人 （93.1%）	22 人 （6.3%）
法学部	417 人 （100%）	13 人 （3.1%）	359 人 （86.1%）	45 人 （10.8%）
人間科学部	336 人 （100%）	21 人 （6.3%）	306 人 （91.1%）	9 人 （2.7%）
国際文化学部	161 人 （100%）	5 人 （3.1%）	146 人 （90.7%）	10 人 （6.2%）
合計	1,943 人 （100%）	61 人 （3.1%）	1,746 人 （89.9%）	136 人 （7.0%）

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）
（株）福岡銀行、（株）西日本シティ銀行、楽天カード（株）、イオン九州（株）、福岡県職員【I 類】等

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
神学部	10 人 （100%）	9 人 （90.0%）	1 人 （10.0%）	0 人 （0.0%）	0 人 （0.0%）
外国語学部	332 人 （100%）	267 人 （80.4%）	50 人 （15.1%）	15 人 （4.5%）	0 人 （0.0%）
商学部	381 人 （100%）	318 人 （83.5%）	50 人 （13.1%）	13 人 （3.4%）	0 人 （0.0%）
経済学部	373 人 （100%）	322 人 （86.3%）	36 人 （9.7%）	15 人 （4.0%）	0 人 （0.0%）
法学部	429 人 （100%）	373 人 （87.0%）	46 人 （10.7%）	10 人 （2.3%）	0 人 （0.0%）
人間科学部	357 人 （100%）	322 人 （90.2%）	27 人 （7.6%）	8 人 （2.2%）	0 人 （0.0%）
国際文化学部	179 人 （100%）	140 人 （78.2%）	31 人 （17.3%）	8 人 （4.5%）	0 人 （0.0%）
合計	2,061 人 （100%）	1,751 人 （85.0%）	241 人 （11.7%）	69 人 （3.4%）	0 人 （0.0%）

（備考）
2022 年 4 月入学者を対象に回答。その他は転部・転科した学生を計上。文学部は 2020 年度より学生募集停止した学部であるため計上しない。

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）【様式第２号の３より再掲】

Ⅰ．授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画
毎年、すべての授業科目について、下記の内容を記載した授業計画書(シラバス)を作成している。

１．授業の到達目標
２．ＤＰ観点(ディプロマ・ポリシー)
３．授業の概要
４．事前・事後学習、時間等
５．授業計画（各回の授業内容）
６．活用される学習方法
７．教科書・テキスト
８．参考書等
９．課題の種類・内容
１０．課題に対するフィードバックの方法
１１．成績評価の方法
１２．成績評価の規準
１３．評価尺度（水準）
１４．成績評価に関するその他の確認事項
１５．使用言語（日本語以外）
１６．履修上の注意

Ⅱ．授業科目
各学部・学科のカリキュラム一覧
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/curriculum.html

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）【様式第２号の３より再掲】

《学修の成果に係る評価》
Ⅰ．成績評価の方法（履修規程 第 5 章 第 32、34 条）
成績は、試験（学期末試験、臨時の試験）、研究報告、論文などにより定める。なお、試験及び評価の方法、基準等は、各授業科目の講義要綱（シラバス）に定める。
Ⅱ．成績評価の基準（履修規程 第 5 章別表 2（第 35 条及び第 35 条の 2 関係）成績評価基準）成績評語は、次の基準による。

評語	GP	評語の意味		判定	素点（百点満点での目安）
S	4	卓越水準		合格	100 点より 90 点まで
A	3	目標	到達水準	合格	89 点より 80 点まで
B	2		途上水準	合格	79 点より 70 点まで
C	1		下限水準	合格	69 点より 60 点まで

D	0	単位不認定水準	不合格	59点以下
X	0	失格	不合格	
T		単位認定	合格	
P		合格	合格	
F		不合格	不合格	

備考

1. 2段階評定科目では、P(合格)、F(不合格)を使用する。
2. 本表は、2023年度第1年次入学生から適用する。

Ⅲ．厳正かつ適切な単位授与、履修認定

シラバスに定める授業の到達目標及びテーマを踏まえ、同じく明示する成績評価の方法・基準（方法毎の割合）に沿って、客観的に判定している。

《卒業又は修了の認定に当たっての基準》

Ⅰ．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

西南学院大学は、その教育理念と目的のもと、各学士の教育課程において、所定の期間在学し、卒業に必要な単位の修得を通じて、次に掲げる資質・能力を身に付けた者に対し、学士の学位を授与する。

A．知識・技能

幅広い教養と専門的知識・技能を身に付けている。

B．思考力・判断力・表現力等

学びと研究の質を高めることができる思考力・判断力・表現力等を幅広く身に付けている。

C．総合的な学修経験・創造性

地域社会及び国内外の諸課題の解決に主体的･創造的に参画･貢献することができる。

D．態度・志向性

自己の成長と社会の発展のために、自律的に学び続ける態度を身に付けている。

Ⅱ．卒業の認定に関する方針の適切な実施

学部・学科によって定められた「修得する能力」を身に付け、専攻科目、共通科目から所定の単位以上を修得し、学則に定める在学期間を満たす者へ学士の学位を授与している。

2年次および3年次終了時点にて一定の修得単位の状況に鑑みた判定を実施するとともに、4年次4月の段階で卒業見込判定を、最終的には4年次3月上旬に卒業判定を実施している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
神学部	神学科	128単位	有	46単位
文学部＊	英文学科	128単位	有	48単位
	外国語学科	128単位	有	48単位
外国語学部	外国語学科	124単位	有	42単位
商学部	商学科	124単位	有	42単位
	経営学科	124単位	有	42単位
経済学部	経済学科	128単位	有	44単位
	国際経済学科	128単位	有	44単位

法学部	法律学科	124 単位	有	42 単位
	国際関係法学科	124 単位	有	42 単位
人間科学部	児童教育学科	124 単位	有	48 単位
	社会福祉学科	124 単位	有	46 単位
	心理学科	124 単位	有	40 単位
国際文化学部	国際文化学科	128 単位	有	44 単位

（備考）
＊文学部（英文学科、外国語学科（英語専攻、フランス語専攻））は 2020 年度より学生等の募集を停止しているため、従前の教育課程による。

ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）	公表方法： ①成績優秀者奨学金 https://w3.seinan-gu.ac.jp/kyoumuka/binran.html ②学修について https://www.seinan-gu.ac.jp/campuslife/class/study.html
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）	公表方法： https://www.seinan-gu.ac.jp/education_study/education_research/survey.html

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：西南学院大学ホームページ　キャンパスマップ
（https://www.seinan-gu.ac.jp/introduction/facility/campusmap.html）

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学部全学科		750,000 円	200,000 円	240,000 円	授業料、入学金は全学部全学科同額 その他（施設費、教育充実費）は、2025 年度以降入学者は 240,000 円、2024 年度以前入学者は 210,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

以下の「修学支援の方針」を踏まえ、関係部署が連携し、修学に関する相談体制を整備して、相談・指導に取り組むとともに、成績の状況及び学籍の異動状況を把握・分析し、適切な指導対応を行っている。

修学支援の方針

（１）学生の自主的な学びの促進と学修相談、指導を行う。

（２）学生が自ら意欲的に修学を進めることができるよう、学修環境の整備に努める。

（３）学生の学修成果を適切に把握し、能力に応じた修学支援に努める。

（４）留年者、休学者および退学者の状況把握と分析に努め、多様な学生が目的に応じた修学を進めることができるよう、教職員が連携して適切な対応を行う。

（５）正課教育、準正課教育及び正課外教育が連動する仕組みを構築し、教育効果を高める。

【参考】

「修学支援の方針」（情報公開/基本方針/学生支援の方針）

（https://www.seinan-gu.ac.jp/introduction/public_information.html#9398）

「修学支援」

（https://www.seinan-gu.ac.jp/campuslife/support/supportlife.html）

b.進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

１年次の正課科目として開講する「ライフデザイン基礎」では、学生が希望する多様なキャリア実現に向けた目標設定や行動計画を自らたてる力の育成に取り組んでいる。また、低学年次からの職業観の醸成等を目的としたキャリア形成支援プログラムを実施するなど支援を拡充している。また、主に３年生以上を対象とした各種講座を実施する他、キャリアアドバイザーによる個別面談・個別指導等を行っている。

c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

年に１回、定期健康診断を実施。その後、健康診断の結果や保健調査票の内容により、保健管理室が学生の健康状態について継続的にフォローしている。また、学生相談室来談者の中にも精神障害・発達障害を有する学生が多く、大学生活全般についての悩みについてカウンセリングを実施している。障がいがある学生への合理的配慮の提供においては、大学の制度として定め、学生課が中心となって運用している。なお、必要に応じて、学内各部署や学外機関との連携・会議を実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：西南学院大学ホームページ　情報公開

（https://www.seinan-gu.ac.jp/introduction/public_information/）

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

○入試科目の見直し、入学後の文理横断型の教育、複線的・多面的な学び、全学的なデータサイエンス教育等の総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取組

入試科目の見直し（公表方法：　　）
（取組概要）
入学後の文理横断型の教育（公表方法：　　）
（取組概要）
複線的・多面的な学び（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/admissions/entrance_system.html）
（取組概要） 従来より入学後の専攻分野の転換、編入学として以下の入試を実施している。 １．２年次転・編入試 ２．３年次転・編入試
全学的なデータサイエンス教育（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/center/ds/）
（取組概要） 2023年度から、全学部向けの数理・データサイエンス・AI教育プログラムの提供を開始している。本プログラムでは、必修科目として「［遠隔］データリテラシー」、選択科目として、「データサイエンス基礎(データ分析)」、「データサイエンス基礎(AI活用)」、また、産学協同でPBL型の選択科目「データサイエンス実践」を提供している。 2024年8月には、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」のリテラシーレベルとリテラシーレベルプラス、応用基礎レベルの認定(選定)を受けており、社会から求められている力を育成する教育プログラムの提供に取り組んでいる。 加えて、2025年度からは、前述の数理・データサイエンス・AI教育プログラムをさらに充実させる形で、全学部生が履修可能な「データサイエンス副専攻プログラム」を開始している。副専攻プログラムでは、前述の各科目に加え、2025年度から新設した「データサイエンス応用(データと社会)」や「プログラミング基礎と活用」のほか、一部の共通科目及び専攻科目を3段階のレベルに応じてそれぞれ履修することにより、データサイエンス関連の知識・技術をより体系的に修得し、デジタル社会における課題解決に取り組むことができる能力の養成に努めている。さらに、正課授業にとどまらず、正課外の取り組みとして、複数の企業と協働し、データの活用方法を学ぶ「1-Day データビジネス体験プログラム」を実施している。授業の枠を超えて、実社会での課題解決プロセスを直接体験できる機会を設けることで、学生の主体的な学修意欲をさらに喚起するとともに、より実践的なデータ活用能力の育成を図っている。

(参考)

＊高等教育の修学支援新制度の在り方検討会議（令和４年 12 月 14 日）
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/1417033_00003.htm

＊総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取組
教育未来創造会議第一次提言 本文 16～17 頁参照
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/teigen.html

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F140310110703
学校名（○○大学 等）	西南学院大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人西南学院

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		1878人（ 1187 ）人	1829人（ 1137 ）人	1947人（ 1223 ）人
内訳	第Ⅰ区分	523人	483人	
	（うち多子世帯）	（ 119人）	（ 96人）	
	第Ⅱ区分	225人	224人	
	（うち多子世帯）	（ 50人）	（ 39人）	
	第Ⅲ区分	152人	160人	
	（うち多子世帯）	（ 40人）	（ 41人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	225人	203人	
	区分外（多子世帯）	753人	758人	
家計急変による 支援対象者（年間）				—人（ 0 ）人
合計（年間）				1956人（ 1223 ）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	24人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	17人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	47人	人	人
計	69人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	―人
３月以上の停学	0人
年間計	―人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	47人	人	人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	―人	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	392人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	73人	人	人
計	429人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。